

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をふまえ、事業所、個人の目標を立てている。朝礼時に毎日事業所の目標を唱和し実践につなげている。	法人理念「共に歩む」と連動したホーム独自の「ゆったり・まったり・心たいせつに」という今年度の目標を立て、日々のサービスの場面で常にふり振り返り実践につなげている。法人理念やホームの目標を入居時に本人や家族に説明している他、玄関、事務所に掲示し来訪者に分かりやすくしている。理念や目標にそぐわない言動については職員同士で注意し合い正しい方向に修正している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや学校、保育園の行事に参加している。また近所の方が野菜、果物、花を届けてくれたりと交流が広がりつつある。	地区文化祭やふれあい広場へ作品を出品したり、保育園や小学校から運動会、音楽会等に招待され交流している。地域住民の方から野菜をいただいたりもしており、日常的に地域との関係を深めるような取り組みをしている。また、玄関ドアは外から開けられるようになっていたため学校帰りの小学生たちの訪問もあり、ハンドベルやマンドリン、踊り、フッドマッサージなど地域のボランティアとの交流も自然な形でできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症家族会学習会に職員を派遣し、家族会のメンバーと語り合う場をもった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの要望またGHからのからのお願いを伝えている。また地域に開かれたGH作りのアドバイスを町から受けている。	入居者代表、家族代表、区長、民生委員、町保健福祉課担当者、長生クラブ代表等の参加のもと、年6回を目標に偶数月の第2水曜日15:30から定例化している。運営状況を報告し、地域の祭りや行事などの情報をいただくなど意見交換や情報交換が活発に行なわれている。外部評価結果についても会議で明らかにしており、いただいた意見や要望等を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の状態や待機者、入居希望等、連絡を取り合うよう心掛けている。	介護保険に関わる色々な情報を流していただいたり相談も掛けており、町との連携は取れている。町保健福祉課担当者に運営推進会議に出席いただいたり、介護認定更新調査時にホームに来訪していただき、職員から現況を伝え、継続の代行手続きなどもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は将来的にやめていく方向にあるが、現時点では外側からだけ、自由に入られるような施錠方法で対応している。	職員は研修や勉強会を通し、身体拘束の弊害を理解し、拘束のないケアに努めている。入居者が外出しそうな様子や気持ちを察知したらさりげなく寄り添い、安全面に配慮し日々の暮らしを支えられるよう努めている。	

グループホームわかかな・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開き、職員間で共有している。また入浴時は皮膚の観察を行い、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を収集し、成年後見人制度を理解できるよう、話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族会運営推進会議の機会をとらえて意見を出して頂いている。面会時等、御家族様と話しをする時間をできるだけ作る努力をしている。	ホーム便り「わかかな」を発行すると共に、毎月現況報告と日々様子を写真入りのお便りとして家族に送り意思疎通を図っている。また、家族の面会や行事の折に意向や要望等を聞き、ケアプランに反映させている。家族会も年2回ほど開かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、毎日の申し送り時、ミーティングに於いて意見交換し、改善に反映している。	毎月第二水曜日の午前中に職員会議を行っており、事前にテーマを知らせ職員からの意見や気づきを出しやすくしている。人事考課制度も徐々に取り入れており、目標管理シートを職員が作成している。法人役員と職員が面談をし、個々の目標の達成状況についてふり返り、意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聞き、積極的に取り入れている自発的に取り組む姿勢を大切にし意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員全員が参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加。講習会への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの希望、ご家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族の意向を重視し、ケアプランを作成し、統一した介護を行っている。他のサービスの紹介、利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の過ごされてきた環境等を理解し、共通の話題を提供するなど、共感し合い、暮らしを共にする事の関係性を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族だから出来る事、施設だから出来る事を共有し、共に御本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はもちろんハガキや手紙のやり取りを支援している。	元の職場の同僚の訪問を受ける入居者もあり、居室などで歓談している。入居前から通っていた馴染みの美容院の方に来ていただいたり、家族等の協力をいただいて昔から買い物していた店に買い物に出掛けるなど、入居者の希望を尊重しながら支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を把握し孤立されている方のないように、努めている。職員は中間的な立場に立ち、話の橋渡し役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望される御利用者様や御家族様には相談や支援をおこなうように努めている。 入院された方には状況を判断し、お見舞い訪問を行っている。		

グループホームわかな・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向をしっかり受け止める様にカンファレンスを行っている。また日々の変化を見逃さない様気づきを共有している。	自分の思いや意向を言葉として表出できない方も増えてきている。入居者情報(フェイスシート)で職員は入居前からの情報を把握し、日常の楽しみごとや役割、支援の仕方について本人本位に検討している。入居者がいきいきと生活できるように声掛けがされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様、御家族様から直接情報を得て、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要に応じ、カンファレンスを開き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族様からの意向、意見をお聞きしている。また医師から意見を得たりもする。それらを基にカンファレンスで意見を出し合い本人に沿うような計画を立てている。	介護計画は入居者、家族の意向を踏まえて作成している。作成後、面会時などに家族に説明し了承をいただいている。毎月のケアカンファレンスで進捗状況を確認し、3ヶ月に一度見直しをしている。状態変化が見られた場合には、随時計画を変更し新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノートに個別で記録し、全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応し、柔軟なサービスを行っている。		

グループホームわかな・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進委員、町の相談員の訪問を受け、情報交換や協力を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回往診日を設けている。また必要な場合はすぐ往診に来てくれる体制となっている。	協力医療機関がすぐ近くにあり、入居者の体調変化が生じた場合などの緊急時でも時間に左右されずいつでも相談が可能で適切な治療を受けることができる。かかりつけ医の定期受診については家族が本人の状態を把握する大切な機会でもあるため原則的には家族同行をお願いしているが、都合の悪い時には職員が付き添うこともある。隣接老健の看護師が週に1回訪れて健康管理や相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に気づいた点を相談しアドバイスを受けながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人グループ内の医療関係者も含めて入院時の医療機関とは情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族の意向を尊重し、医師や看護師との相談を重ね方針を決めている。またここでの生活を1日でも長く過ごして頂けるように対応している。	入居者の高齢化により今後身体機能等の低下と共に重度化が更に進むことが懸念されているが、法人の「重度化した場合における看取り指針」もあり、開設以来数件の看取りが行われている。契約時、看取り介護についての事業所の方針を本人、家族に説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医が側におり、応急手当を聞き対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災委員会を中心に定期的に実施している。	職員は防災に対しての意識が高く避難の際の役割を認識している。今年度は消防署の指導の下既に6月と11月の2回防災訓練を実施した他、ホーム独自に地震を想定した避難訓練を8月に行っている。入居者も参加し、緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応を行っている。また接遇委員による自己チェックを行い、日々努力している。	「接遇チェック表」を使い定期的に職員自らの接遇等の姿勢を問う機会を設けている。100項目にわたり「身だしなみ・態度・電話対応・人間尊重・個人情報保護」と多方面からチェックを行うことができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人が希望等を訴えやすい様なかかわりを持つように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースでの生活を優先するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しまれるよう支援している。身だしなみ等にもさりげない声かけにて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂くように、味付けや盛り付けに工夫している。職員も一緒に食事し、話などしながら、楽しい時間となるように心がけている。	入居者の中でできる方は野菜を切ったり、食器洗い、食器拭きなどを手伝っている。職員も入居者と同じテーブルと一緒に食事をし、会話の中から料理への反応や意見を聞きとり献立の見直しに役立っている。また、ミキサー食やトロミをつけるなど状態に合わせた食形態で調理されており、介助が必要な入居者には職員が必ず一人ずつ付き、本人のペースに合わせてながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせている。医師や栄養士からのアドバイスが必要な方もおり、それぞれに応じた対応となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎日の生活の中で一連の流れとして、楽しみながら行っている。		

グループホームわかな・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。また「訴え」の行動を見逃さない様にして、本人の意思を尊重した支援ができるよう努めている。	排泄面で自立されている方が少なくなってきた。排泄リズムやしぐさを職員は把握しており、声かけや誘導でさりげなく介助している。失敗した場合にも自尊心に配慮し、居室やトイレで個別に対応している。リハビリパンツとパット使用の方が多く、安心のためにポータブルトイレを居室に置いている方も若干名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動にて予防に取り組んでいる。しかし薬での排便を余儀なくされることもあり医師と常に連携を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日を入浴日として、原則この間に2回入浴していただくよう支援している。入浴方法も個人個人により工夫している。	入居者の殆どが何らかの介助を必要としている。広々とした脱衣場と両側から介助できる浴槽になっているため二人介助の場合でもスムーズに対応できるようになっている。その日の気分や状態で入浴を拒む入居者もいるが、無理強いすることなく、気持ちを大切にしながら声かけ等を工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人ご自由な場所にて休まれる。職員は常に状況を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については常に確認し理解している。薬の変更があった場合はスタッフ全員に速やかに通達し徹底している。また日常の変化を医師に伝え服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自由にして頂ける様に見守っているが、趣味をお持ちの方には、役割を持って頂いている。また興味をそそるような話題を提供しお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、出来る限り希望に沿うようにしている。また御家族の協力が大変得られており、一時帰宅や旅行等楽しまれている。	敷地内の老人保健施設の集積場にゴミ出しに行ったり、同施設で行なわれるボランティアによる発表会にも出掛けている。車椅子使用の入居者も多くなっているが、事業所周辺の散歩にも出かけ気分転換を図っている。時季にあわせた紅葉狩りやバラの見物などにも数人ずつのグループに分かれて出かけている。	

グループホームわかな・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、御利用者様の要望に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには観葉植物やお花等を置き、壁には季節の暖簾をかけるなど、落ち着いた空間となっている。掲示板上には外出時やレクリエーションの多くのスナップ写真が張り出されており、ホームでの穏やかな暮らしぶりを垣間見ることができた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所にはソファやテーブルがあり、一人でも多数でも利用できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の気持ちを大切に、好みを活かした居室になっている。それぞれの特徴が活かされたきよしとなっている。	各居室入り口には表札替わりの花の写真が掲げられその花の名前が居室名になっている。居室には入居者の作品や写真が飾られ、寝具についてもベットや布団とそれぞれの好みによって持ち込まれ、職員が毎日清掃をしている。一人ひとりがその人らしく、居心地良く過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自然体で接し、ご自分の「できること」「わかること」を活かして頂ける様に配慮している。状況に応じて促しもしている。		